

高次脳機能障害及びその関連障害に
対する大樹の郷(くに)での療育支援
～ A氏の変化 ～

平成26年10月10日

社会福祉法人 茶の花福祉会

大樹の郷

白井 昭光

高次脳機能障害についての事例

A 氏 20代 男性

高次脳機能障害（後天性）

バイク事故により、頭部外傷、脳挫傷、脳出血。

※頭部外傷、脳挫傷、脳出血による上肢軽度機能障害、右下肢軽度機能障害、頭部外傷による視野欠損1/2以上、特に右側に視野狭窄。

精神障害者手帳2級 身体障害者手帳5級 療育手帳C

[現在までの経緯]

事故の前は障害もなく、学校の成績も優秀で、ダンスやサッカーと活発に取り組み、ユーモアのある青年だったそうです。しかし高校生の時から反抗期から非行にはしり、警察に補導されていた。

（喫煙、万引き、ケンカ、暴力等）

バイク事故後、自宅生活となり、母親が仕事を辞め、本人に付きっきりの努力により通信教育等、高校卒業まで漕ぎつけるが、日々母親への反抗が強く出始め、母親が精神的に限界になり在宅支援が困難な状況になる。

入所先や短期入所サービスを探しながら、日中の福祉サービス等利用して自立訓練を開始する。しかし、たばこのこだわり、暴力、時間の管理が全くできない、髪の毛へのこだわり、何時間もトイレにこもる等、支援が困難な状況で、職員への暴力や煙草のこだわり等、様々な問題を起こしたり、出入り禁止になったり等、受け入れ先が無くなる。

悪い経歴が積み重なってきたため、書類やケースの状況を話ただけで、受け入れを拒否されてしまう状況になってきていたが、茶の花福祉会大樹の郷(くに)のサービス利用に至る。

[在宅生活での問題点]

- ・勝手に他人の部屋に入る。
- ・勝手に物を持ち出す。
- ・一人で外に出て、信号関係なく道路横断。
- ・万引き。他人のパスモ、財布を取る。
- ・トイレ(自宅、外出先、コンビニ等)に長時間こもる。
- ・時間の管理ができない。
- ・爪が切れない。
- ・髪の毛が切れない
- ・全般的に不潔で、特に洗髪ができない。
- ・移動中の車から、ドアを開けておりにしてしまう。
- ・お皿をなめる。
- ・お金の管理ができずあればあるだけ使ってしまう。
- ・暴飲暴食
- ・暴力(殴る、蹴る)、時折大暴れをする。物損、他害行為。 ※自傷行為はない。
- ・夜中に冷蔵庫をあさり全部食べてしまう。
- ・昼夜逆転
- ・ゴミや髪の毛収集
- ・唾をためて、どこにでも吐いてしまう。
- ・良いこと悪いことの判断ができない。
- ・他人を凝視してトラブルになる。
- ・盗食(人のご飯を食べてしまう)
- ・自宅を抜け出してどこかへ行ってしまう。

警察に補導されることも多く、近隣、外出先でのトラブルが絶えなかったとのこと。

問題点から見えてくる支援方針

高機能自閉症ケースの行動特徴や問題点と類似している。

例)

- ・言葉でのやり取りによる理解に支障がある。
- ・言って聞かせようとしても言うことを聞かない。
- ・一見会話ができそうに見えるが、実は視覚的なものの影響を受けやすい。
- ・行動の切り替えがうまくいかない。(こだわり等)
- ・カッとなりやすい傾向がある。(言葉で色々な人に、いろいろな表現で言われるため混乱) etc

家族や支援者等、支援者の関わり方で、表面に出てくるアクションが違って見えるが、根底の障がい特性としては、同じ部分がある為、突破口にしていく。

個々の細かい問題点を改善していこうとするのではなく、人間のメカニズムを基に分析して支援を進めていく。

◎ 第一に生活リズムを整えること

実際に実施した取り組み、説明と成果について①～⑩で説明します。

① 運動と健康管理

< 集団戶外歩行訓練を毎日行う >

- 脳内の神経伝達物質の一つであるセロトニンの分泌。(精神安定)
- 太陽の光を浴びて、体のスイッチを夜モードから朝モードに切り替る。
- 現実的に継続して、実行できる取り組みは、**集団戶外歩行訓練**。
- 集団で歩行することで、視覚的に解り易く支援する。
- マイペース行動から、他人に合わせたユアペース行動がとれることを目標にする。

< 健康管理について >

- 運動もせず、薬を飲んで、食事を大量に摂取していると体内の循環も悪くなったり、疲れないので、体内リズムが悪くなり、昼夜逆転で夜に問題を起こす。
- 集団戶外歩行をして、肥満を解消・予防。

* 成果

- A 氏も継続して活動できてくると、持続力や耐性力がつき、格段に落ち着いてくる。
- 日常的にトラブルやこだわりが減少
- 集団戶外歩行による効果とみています。
- 身体的な機能障害についても、緊張が緩和
- 麻痺が格段に改善。

② 睡眠

<規則正しい睡眠をする。>

- ・昼夜逆転は、重度の社会的行動障害がある方々の傾向として多い。
- ・夜間に問題を起こし、家族や支援者等が、体力的にも精神的にも追い詰められる。
在宅支援が困難になっていく理由の大半を占めます。 A氏も同様。
- ・よい睡眠をとるためには、睡眠ホルモンであるメラトニン。
- ・夜遅く起きていたり、明るい中で眠っているとメラトニンの分泌を抑えてしまう。
- ・寝付けなかったり、浅い眠りだったり良い眠りを手に入れることが困難。
- ・一般的には、夜8時ごろからメラトニンが増え、夜中の2時頃をピークに、朝方にはメラトニンの分泌は止まり、今度はセロトニンを分泌する。規則正しい睡眠、生活をする事で、セロトニンとメラトニンを適切に分泌。
- ・日中起きて活動して、疲れて夜眠るといごく単純と思われるサイクルを作る。

* 成果

- ・A氏は利用開始初日より集団戸外歩行訓練に参加して夜はぐっすり寝ていました。
- ・生活リズムが整ってきて、起床時間も概ね集団生活に合わせることができるようになりました。
- ・約1年ちょっとかかるが、継続的に行うことで結果がついてきた。
- ・規則正しい睡眠、生活をする事で、セロトニンとメラトニンを適切に分泌されていると評価。
- ・目では見えないが、明らかに行動が変わってきているので適切な状態と評価。

③ 食 事

<食事を楽しみにしてもらおう>

- ・緊急で施設サービスの利用になったA氏の場合、特に自宅に帰りたい気持ちが強い為、食事に対して毎日、毎食、楽しみにしていただけることを目指しました。
- ・栄養とカロリーだけにならないように、食器のセンスや提供の仕方等に気を遣う。

例)

- ・健常者もお金を払えば、普通に利用できるような食堂の雰囲気。(センス)
- ・病院食のような雰囲気を軽減させるような食器。(センス)
- ・普通の食堂のランチメニューのように、選択メニューを設け、「選ぶ」ことをしてもらう。

etc

<セロトニンを増やす食べ物を献立に組み込む。>

- ・セロトニンを合成してくれるトリプトファンを摂取。
※トリプトファンは脳に運ばれると、セロトニン、ドーパミン、ノルアドレナリンといった神経伝達物質をつくる原料。
- ・セロトニンには、睡眠、鎮痛、精神安定などの作用があり、不眠の傾向がある人やうつ病ぎみの人に有効。
- ・腸管の運動を促進する働きもある。

※薬を多く服用されている方々の傾向で、便秘になりやすい為、個人差はあるものの便秘解消の効果も期待。

参考) トリプトファンを含む食べ物

- 豆製品 ……豆腐、納豆、大豆、味噌
- 卵
- バナナ
- 乳製品 ……牛乳、ヨーグルト、チーズ
- 種類 ……ひまわりの種 など
- ナッツ類……アーモンド など

これだけ取ればよいというのではなく、バランスよく、活動を含め、総合的に取り込んでいくことが重要。

*成果

- 利用開始時から現在まで、食事に対して毎日毎食楽しみにしている。
- セロトニンを増やす食べ物の効果としては評価が難しいのですが、A氏は安定している。
- 便秘もあり、トイレにこもっていたが、現在は便秘で困ることもない。

④ ダイナミックリズム (DR)

・集団適応訓練の一つとして、音楽のリズムを用いて、無理なく、楽しく、集団でダイナミックに活動する。(集団音楽療法)

・視覚からの情報が優位に働く障害の特性を用いて、大人数での取り組みをすることにより感応されて(つられ動き)、気付くと自分のペース(マイペース)から、周りのペース(ユアペース)にしていく。

◎ 行動リズムを調整していくことで、自分自身の行動制御ができるようにしていく。

※暴力や行動の切り替えができないマイペース状態等が問題になる為、周りに合わせて行動する練習をしていく。

* 成果

- ・A 氏も、日々取り組むことで、行動リズムが整い、概ね周りに合わせた集団行動ができるようになる。
- ・行動の切り替えが早くなったり、受け答えもはっきりとスムーズ。
- ・戸外歩行訓練と併せて継続していることで、より効果が出ている。

⑤ 学 習

- ・「意識的に考える」時間を作り、脳を使う時間を増やす。
- ・日常的に使っていなかった脳の回路を使うようにしていく。
- ・幼少期の反射の残存行動や本能的な行動を、大脳の働きが抑えて管理。(脳の働き)するため、言語機能を掌る大脳新皮質を使えるように、継続して学習。

※ 障がい特性上、混乱を招く言葉のやり取りに固執しないように加減を注意する。



時間と場面を設定して、明確な題材を介してやり取りを行うことで、混乱なく集中。

<例>

- ・日記をつけて、振り返りをする。(項目を決め、自由に書きすぎないように設定する)
- ・漢字練習(マス的大小さを指定して書き取り、穴埋め問題 等)
- ・概念学習(善悪の判断等問題) etc

* 成果

サービス利用開始当初、こだわり等で、目つきや表現も悪く、やや動物的な感じがしたが、人間らしく、生きた、覚醒した目つきに変わってきている。

⑥ 生活環境

・入所される利用者の方々の大半は、障がい特性から考えても環境の変化に弱い。急に生活環境が変わるとなると、情報処理ができず、切り替えが困難で混乱状態。

(健常者も一緒)

・今までの慣れた感覚、環境を求め、自宅へ帰りたと思う。

・贅沢に、なんでも揃いすぎていると、興味があるものに負けて、活動に向き合えないが、極端に何もない環境も、自宅への思いや施設外の世界へ、強烈な思いが湧き出る。

◎ポイント 「入所施設もこれだったまあいかな」と思ってくれる環境を考える。

・世間一般的な家庭環境を平均的に見たとき、また年齢的にも考慮して何が無いと不自由でストレス(欲求)を感じるのか？

例)

- 「食事で食べたいもの出てこないし、量も少ない」
- 「テレビがまったく見れない」「新聞がない、テレビ欄が見れない」
- 「ジュースが飲めそうな気配がない。自動販売機がない」
- 「施設内で上履きが必要」(日本の文化は靴を脱ぐ)
- 「毎日お風呂に入れない」
- 「おやつで市販のお菓子がまったく食べられない感じがする」
- 「外に出る機会が少ない」

※上記を基に、ある程度の環境を整える。

* 成果

- ・施設での生活環境に目を向けられるようになり、みんなでテレビを見たり、新聞の内容を周りの人と話をしたり、食事のメニューの話題、活動や役割に対してのスタッフの評価を気にするようになったり、ごく普通のやり取りができるようになる。
- ・こだわりに執着していた毎日から、他の人を意識して生活するようになる。
- ・集団活動にプラスαの要素(環境設定)を付け加えることで、より支援がスムーズ。

⑦ リハビリテーション

- 身体障害について、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の診断で問題点を確認。
- 人間の発達段階のおさらいを中心に進めている。
- ダイナミックリズム(DR)で、音楽とリハビリを合わせたりしながら、毎月の課題を現実的に継続できそうな取り組みに変化させ実行できるように取り組む。

* 成果

リハビリのみの取り組みだけでなく、集団戸外歩行やダイナミックリズムなどと組み合わせて取り組むことで効果が出ていると見えています。

⑧ 役割

・人間は、他人を意識したり、人から頼られたりしていくことで、自分の存在価値を見い出していくと言われている。

*** 茶の花福祉会の経営理念でも謳われています。**

※まずスタッフが見本となり日常的に風潮を作る。(視覚的見本)

・意図的に「スタッフが他利用者に頼み、それを実行して評価する」を視覚的に見せる。

その直後に、A氏にも役割をお願いして、実行することができたらタイムリーに評価をする。

評価されたことが良い記憶として繰り返しの行動に切り替わっていき、自発的に役割を行うことができるように意図的に仕向けていく。

・A氏については、社会的行動障害が多くあり、このようなケースの方は、傾向として迷惑ばかりかけてきている為、「叱られる」「否定される」「適当にかわされる」等の言葉に対して極端に反射的な反発行動(暴力、暴言等)を導いてしまう傾向にあります。

それゆえ「褒められること」「ありがとう」がコミュニケーションをとるキッカケとして非常に重要となる。

ポイント 「具体的な行動の直後に、その行動を褒める」こと。(互いに視覚的に見て取れる行動を評価すること)

注意点 「なんとなく褒める」「褒めすぎる」「調子がよい時に話し過ぎる」「何とか強い思いを話して分かってもらおうとする」は混乱させる。

・障害者の特性等ではなく、一般的組織マネジメント論で、人材育成の観点としても同じ。

*** 成果**

役割をしていくことで、「頼られる」「褒められる」「ありがとう」に喜びを感じている様子が明らかに見られ、活動意欲のベースとなり、その他取り組みへ相乗効果となっています。

⑨ スタッフも生活環境の一部

- ・視覚的に優位に情報が取り込まれる障がい特性から、環境を分かりやすく整える。
- ・ルールは言葉で伝えるのではなく、環境的かつ視覚的に、“スタッフが見本となること”。

* 成果

日常的に、挨拶、言葉遣い、歩き方、ルール、スタッフの身だしなみ、髪型、清潔感等、スタッフがある程度の統一感を作り出し、見本となることで、作り上げられた風潮の中に身を置いているだけで、言葉で伝えられないことが身に付いています。

成果事例)

- ・事務室に入るときノックをして「失礼します」と言って入れる。
- ・挨拶 — 立ち止まって挨拶
出かけるときに「行ってきます」、帰ってきたら「ただいま」
自分以外の人にも「行ってらっしゃい」、「お帰りなさい」
来客者に「こんにちは」等
- ・丁寧語、敬語を真似て使っている。(以前は言葉が乱暴)
- ・「ありがとうございます」と場面に合わせて言える。(自分も言われていることを模倣) etc

※上記すべて、スタッフが意識的に教えたものでなく、おそらく本人が模倣した行動と考えています。

⑩

社会参加訓練と余暇

- ・クラブ活動でサッカー、よさこい、バンドに所属してもらう。
 - ・社会参加訓練として、日頃から行っている戸外歩行訓練の成果を発揮できる、地域のウォーキング大会等に参加。(一石二鳥の取り組み)
 - ・全て集団的取り組みであり、かつリハビリ要素満載。
 - ・サッカーやよさこいクラブ、地域のウォーキング大会のいいところ
 - *ご家族等関係者に、応援に来てもらうことができる。
 - *一緒に活動できる。
 - *自然な形で他チームの方々と接触したり、触れ合うことができる。
 - *視覚的に解り易い取り組みであること。
- ※サッカーはボールが動くので、療育的には少し難易度としては高い取り組み。
しかしA氏はサッカーが好きという事前情報あり。
- ・ご家族との関係性を調整していくことも重要。「家族に二度と会えないのではないか？」という本能的感覚で不安感。
 - ・これを緩和していかないと、活動に向き合えず、支障をきたす場合が多い。
※適当に会話でごまかしていても、いつか必ず限界が来る。
 - ・「楽しいと感じるサッカーもできる」「外にも出られる」「今まで厄介者と思われていた自分の応援に来てくれる」等、逆に安心感へ変わってくる。
 - ・家族に会わせてくれたり、家族からの評価が変わることで、スタッフとの信頼関係もグングンアップ。

* 成果

- ・社会参加訓練の進捗としては、目的をもって外出することで、たばこの訴えや他人とのトラブルはない。
- ・よさこいやウォーキング大会等で、出会った方々からは、「この子は礼儀正しくて、気も使えるのに、どこに障害があるの?」と言っていた。

* 支援者側としては、最高の褒め言葉。

- ・評価としては順調でご家族とも適度な関係性を保ちながら、関わりを増やしている。

* ご家族との一場面

A氏は、施設で成人を迎えることになりました。成人式(施設内独自の会)の際に、ご家族をお招きしたのですが、逆にA氏がご家族に気を遣い、もてなす感じで、気が利いて、言葉も丁寧になって喜ばれる。

しかし以前、散々ご家族へ迷惑を掛けたことを思い出して噴出したようで、本人に対して集中豪雨のように、不満をぶつけていました。

しかし、本人は、申し訳なさそうな顔つきで黙って最後まで聞いて、集中豪雨が止んだ時に、「今まで本当にすいませんでした」と謝罪しました。

ご家族はびっくりされ「変わったね」と涙されていました。

現在では、地域のよさこい祭りに参加して、ご家族が応援に来て、写真を撮ったり、話をしたり、時々会う距離間ではあるが、限られた条件の中で、互いに良好な関係性を取り戻そうとされています。

*しかし、ご家族と長い時間話をしていると、以前の関係性を本能的に思い出してしまうのか、A氏の目つきがこだわり等で行動が切り替えられないときのようになる為、本人と会って話をするときは、ほどほどにしてくださいように、ご家族にご協力いただいております。

スタッフの継続課題

スタッフ間の情報共有と連携。

怪我をさせないように、スタッフの技術力向上。

感情論や個人の主観で物事を判断せず、脳科学を基に行動分析し、客観的に考える。

- 「なぜ」そういう行動をするのか？ (5W1H)

- 「何が」刺激となって問題行動が発生しているのか？ (刺激と反応) etc

障がい特性を知っているだけでは、改善には繋がっていかないので、具体的な実行と修正そして継続。(PDCAサイクル)

※ 知識を基に行動した結果を経験として増やし、修正を重ねながら技術を磨けば、必ず勇気と自信に繋がり、行動が変わると信じる。

以上